

[第32回学術集会 シンポジウム2]

食べたい食べたい食べれない！寂しかった子供時代

北海道つぼみの会 事務局

田島 由香

1型糖尿病を発症してから44年がたとうとしています。私が子供の頃は徹底した食事管理と血糖値が高い時は運動をして下げるという治療方法でした。食べたいものを好きなだけ食べることができないということが大きなストレスになっていたと思います。ご飯もお肉も果物も勿論お菓子も全てグラムで計算し食べれる量の少なさに苛立ちや寂しさを募らせていたように思います。血糖値が高い時は外で縄跳びや階段の登り降りをしていました。それが嫌でたまらなくて親に高くないと嘘をつくのですが母親の勘とは恐ろしいものでその嘘を見抜かれ怒られて結局1人寂しく外で縄跳びを飛ぶというのが日常でした。思春期になるとまわりに食事や間食に関すること血糖コントロールのこと合併症のことを言われるたびにイライラし将来のことなどどうでもいいから今好きなように生きたいと反抗ばかりしていました。決して将来を考えていないわけではなくきちんと血糖コントロールをしなくてはならないとわかっているからこそ、うまくいかない、食べたいという気持ちを我慢できないことに焦りや苛立ちがあったんだと思います。主人と出会った時食べたかったらインスリンを追加したらいいとアドバイスをもらっ

てから初めて病気と向き合えた気がします。それまで食べたらいけない運動しないといけないうるがらめになっていたので主人の言葉でどれだけ救われたかわかりません。今現在21歳になる息子がいます。11ヶ月の時に1型糖尿病を発症しました。どうしても申し訳ないという気持ちがあり甘やかし大事大事と育てててしまいましたがきちんと病気と向き合い腐ることなく優しく成長してくれたことに感謝しています。息子に対して自分が言われて嫌だったことされて嫌だったことは絶対にしないとそれだけは気をつけてきました。私たちのせいで息子が1型糖尿病を発症してしまったわけですがこれまで1度もそのことについて文句を言ったことがありません。少し前に息子に疾患があることで嫌なことや不安なこと辛いことはあるかと聞いたことがあるのですがインスリンを打つのが面倒だと思うことはあるけど不安なことや辛いと思ったことは1度もないと言っていました。私に遠慮して言えないだけかもしれないと思いながらも救われた気がしました。本日は子供の声を聞くということで、子供だったのはずいぶんと昔の話で参考になるかわかりませんがこのような機会を頂けたことに感謝しております。